弘法大師ご誕生一二五〇年
「大師は弘法に取られた」

犬山・寂光院山主
松平實胤

二十五人のお大師さま

大師号は朝廷から高僧に下賜される諡です。日本には天台宗をはじめ宗旨宗派が多数ありますが、宗祖といわれる高僧など二十五名が大師号をお持ちです（※注、浄土宗の法然様八つ、黄檗宗の隠元様は三つの大師号をお持ちですので現在延べ三十四の大師号が存在します）。しかし、「お大師様」といえば、どのお大師様ですかと尋ねる方はいません。「大師は弘法にとられた」と言われる如く空海「弘法大師」に決まっています。それほどまでに空海は万人に身近な存在であり、慕われたからでしょう。

弘法利生

さて弘法という大師号は空海ご入定後八十六年後、醍醐天皇から授与されました。空海の活躍をおもんばかり「弘法利生」という意味でその二字を取り「弘法」とされたようです。弘法とは「弘法」かつ「利生（＝「利益衆生」＝生きとし生けるものすべてを利益する、救う）」ということです。



弘法大師像

なるほど空海は「すべての人が生まれてきてよかった、生きてよかった、生きるって素晴らしい」という「生きる喜びを実感できる新しい仏法（密教）」を万人に弘められました。まさに「弘法」です。

更に「利生」です。実は空海は西洋のレオナルド・ダ・ビンチに並び称される万能の天才でした。文系理系問わず超一流の能力の持ち主で、まず文系では〈書、語学（唐語、梵語）漢詩、文章力、密教絵画、仏像彫刻、教育（綜芸種智院＝万民のための理想の学舎創設）〉です。理系では〈鉱山鉱脈、薬医、天文、伽藍建築、土木治水（香川県満濃池の修築）〉にも秀でておいでになりました。実際に空海はその能力をフルに発揮して、日本の文化力を高め、万人の苦難を取り除き、安穏な日常生活を取り戻すというまさに「利生」の大活躍をされました

空海の願い

空海は晩年「虚空尽き、衆生尽き、涅槃尽きなば、我が願いも尽きなむ（＝生きとし生けるもの全てを未来永劫にわたって救済する）」という誓願を立てられます。つまり空海の在世「平安」の時代のみならず、今もなお、いや更に未来にもお大師様は「弘法利生」に励んでおられるということです。全国津々浦々で「お大師様に救われた」、「お大師様のおかげ」という大師伝説が語られてきました。いや現在もなお、いや未来永劫お大師様は、我らに寄り添い、我らと共にあるという「同行二人」の信仰は混迷の時代を生きる私共の心の支えとなっています。

今、ここ、この居場所こそ「密厳浄土」

今年の大河ドラマは「どうする家康」です。家康の旗印は「厭離穢土　欣求浄土」です。「この穢れた現世を厭い、せめて来世に阿弥陀如来の仏国土〈西方極楽浄土〉に往生できることを願う」という戦国の世に生きざるを得ない人々の心中は察するに余りあります。

空海は「この世こそ大日如来の仏国土〈密厳浄土〉」と広く密教の教えを弘められました。大日如来はいつでもどこでも誰にでも常に良くあって欲しい、良くなって欲しいとお力を加えて下さっています、これが「加持の加」です。私共はそれに応えて前向きに喜んで生きて行こうという意欲を持つ、これが「加持の持」です。

空海は中国で師の恵果より「空海よ、あなたは大日如来のようなお方だね」と言う意味で「遍照金剛」の名を授与されました。遍照金剛は「大日如来」とイコールです。

空海はこの世が密厳浄土であると私達が納得できるよう「弘法利生」に尽力されました。そして未来永劫その願いに生きると宣言されました。だからこそ、万民に慕われ、「お大師さま、お大師さま」と拝まれてきたのでしょう。

報恩感謝

弘法大師ご誕生一二五〇年を迎えて、私達のできることはお大師様に対する「報恩感謝」です。具体的にはお大師さまの願いに応えて前向きに喜んで生きて行こうとする意欲を新たにすることだと思います。